

## 2018「山の日」記念イベント・大高取山山行報告

松本敏夫

平成 30 年度の「山の日」イベントは、埼玉県山岳連盟 2018「山の日」実行委員会主催、越生町、日本山岳・スポーツライミング協会および日本山岳会埼玉支部後援で、9 月 1 日（土）8 時、越生駅前ポケットパークに集合、越生町の大高取山周辺で開催された。開会式では来賓として参加された越生町の新井雄啓町長から挨拶を頂き、越生町の「ゆずの里ケーブルテレビ」の取材があった。当日は明け方から雨が降りだし、残念ながら雨具着用で開会式に臨む状況であった。参加者は埼玉県山岳連盟加盟の各山岳会及び一般登山愛好家並びに救護担当として参加した防衛医大の学生等を含め総計 77 名で、日本山岳会埼玉支部からは 13 名の会員が参加した。

当初の計画では、開会式の後、A 班「ふるさとの山に登ろう」コース、B 班「特異な地層や植物観察」コース、C 班「三角点を見つけよう」コース、の各班（各 30 名程度）に分かれて登山する予定であった。しかし、実行委員会で協議した結果、天候が悪く大高取山登山は困難と判断し、各班共に世界無名戦士の墓から天候の状況により西山高取まで行き、越生駅に戻るコースに変更された。なお、雨の状況次第では、舗装された道が続く無名戦士の墓までの往復とする可能性も残して出発した。

僧行基伝説を残し源頼朝が再興した法恩寺境内から鎌倉時代に活躍した越生次郎家行を祀った越生神社（かつての八幡神社）を参拝して、車道を辿り第二次世界大戦で亡くなった将兵を敵味方の区別なく供養した世界無名戦士の墓で休憩となる。雨が上がったこともあり蛇行した越辺川や越生駅付近がぼんやりと眺められた。世界無名戦士の墓の横に四等三角点があることから三角点に関する説明が行われた。道標に従い西山高取に至ると曇り空の下に毛呂山町の街並みが眺められた。山頂でしばらく休憩後に高取城址に向けて下山を開始する。途中、ウラジロやチャートの岩塊を眺め、空堀や土塁を過ぎるとスダジイの二本の巨木が残る高取城址（越生神社の奥の院でもある）で郷土の歴史、地層、植物等の説明を聞く。その後、越生神社を経由して越生ポケットパークに 11 時過ぎに戻り、2018「山の日」イベントは無事に終了した。

雨は上がったものの何時降り出すか気の揉める天候であったが、参加者全員事故もなく出発地点に戻った。大高取山周辺の歴史・文化、地層、植物、三角点等の説明担当として各班では入念な事前準備をしていたが、あいにくの天候のため担当者に説明して頂く十分な時間を割くことができなかったのは誠に残念であった。また、登山道も雨に濡れ下りは特に滑りやすくなっていたため、慎重に足を運ぶことが必要であった。予定していた大高取山や僧行基が造ったと伝わる観世音菩薩像を安置する桂木観音まで歩けなかったことは残念ではあったが、今回の 2018「山の日」イベント・大高取山を契機に、日本で最初に「ハイキングの町」宣言をした越生の山々に親しんで頂くきっかけになれば、「ふるさとの山に登ろう」とのテーマで、大高取山周辺で開催されたことは意義深いことであったと思われる。



越生町新井町長の挨拶



ゆずの里ケーブルテレビの取材



ポケットパークでの開会式風景



無名戦士の墓での B 班



西山高取山頂で休憩中



高取城址での説明会



越生ポケットパークでの閉会式

以上